

# 秘密保護法強行採決を 安倍政権の終わりの始まりに！

十二月六日深夜、安倍政権は参議院本会議で特定秘密保護法案を強行採決しました。国会周辺には連日、数千人の人々が詰めかけ、全国各地で集会やデモが行なわれ、各界から抗議声明が出され、「国際社会」からも懸念と批判が寄せられる中で！本当に許しがたい暴挙、国会の自殺行為です。

この間大阪でも、大阪弁護士会呼びかけの十一月十二日昼デモ、二十一日の屋内集会をはじめ様々な行動が取り組まれてきました。十二月一日日曜日には二千三百人が御堂筋をデモ。翌日、弁護士会よびかけのデモには真昼にも関わらず千人が結集。四日の服部前国会議員呼びかけの緊急行動にも八百人が駆けつけました。同時刻、近畿各地で抗議行動が行なわれました。参議院特別委員会で強行採決された五日と本会議強行採決の六日には自

12月2日12時、デモは弁護士会館を出発。市役所前まで5つの隊列が進む。多くの人の注目と関心を集めた。



右 十二月四日の緊急行動。扇町公園から市役所前まで怒りのデモ。

戦争の槌音(つちおと) 高き秘密保護法  
身を引き締めて新たな構え [加来洋八郎]  
南大阪平和人権連帯会議元議長が発言の最後に詠まれた句  
民党大阪府連に抗議し、  
天満橋駅周辺で宣伝活動  
を行いました。

【堺からのアピール】（ネットより）

参院本会議で賛成130、反対82で秘密保護法が成立しました。賛成は自民、公明のみ。反対は、民主59、共産11、社民3、生活2、無所属の系数・山本両氏などと、退席したみんなの党から出席して反対票を投じた川田・寺田・真山氏。みんなの党と維新の会は退席して棄権。日比谷野音からあふれた1万5千人、そして全国津々浦々での抗議に包まれての採決でした。安倍政権は巨大な与党議席を有しながらも、急速に盛り上がる反対の声に追い詰められ、超短時間の審議時間、前日決定・翌日開催の地方公聴会、職権乱発による委員会運営、他法案の優先処理のための野党常任委員長解任と与党への差し替え、審議最終盤でのエセ第三者機関の答弁での繰り出しなど、異常な国会運営と強行採決を繰り返しました。（略）

しかし、国会外の抗議行動はかつてなく急速に広がったことにより、衆議院では早々と法案賛成の手打ちをしたみんなの党はついに法案賛成にまわる事ができず、国会運営の異常さを理由に内閣不信任案に同調せざるを得なくなりました。同じく衆議院で改悪とも言える法案「修正」に応じた維新の会

も、内閣不信任案反対で安倍政権への追随ぶりを示したものの、党内の亀裂露呈を怖れて結局法案賛成にはまわる事ができませんでした。かつて政権担当時代に同種の法案を準備した前科のある民主党は、先議のNSC法案成立に早々と荷担したこともあり、当初は腰が引けていましたが、最終盤では市民の声に押されて内閣不信任案提出に踏み切りました。しかし、法案の参院採決時には一時退席などの迷走ぶりを示しました。

安倍政権は法案を成立させたものの、市民の自覚的立ち上がりのめざましい拡がりという大きな代償を背負いました。これからも集団的自衛権容認と国家安全基本法案制定、今回同時に成立した生活保護法改悪の施行、原発再稼働への転換等々、“ナチスのやり方をまねた”違憲立法を次々と強行して行くことは必至です。しかし私たちが、秘密保護法案反対のこの市民的エネルギーと自覚を持続し、悪政に抵抗する幅広い市民的陣形を整える事ができるなら、安倍政権の終わりを私たちが引き寄せることが現実味を帯びてきます。自分のできる事から始めていきましょう。（以下略）

全国に闘いを呼びかけた海渡弁護士は「直ちに法律廃止の活動を始めよう」と訴えています。全国を席捲した危機感と怒りの渦を、法の廃止、戦争と改憲阻止、安倍政権打倒の闘いへとつなごう！

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！